

久斗山地区公民館だより



令和7年
11月号

10月23日発行

久斗山地区公民館

【ご挨拶】 4月13日に開幕した大阪万博が、10月13日に184日間の幕を閉じました。165の国や国際機関が参加、会期中の来場者数は2,557万8,986人だったそうです。猛暑の夏を乗り越え、閉幕間際には追い込みで多くの人で混雑し、13日最終日には20万人以上が来場したそうです。大きな事故もなく、経済的効果も大きかったということで一応、成功との評価です。会期中の報道で、人の多さや何時間も並ぶ現状を見てウンザリして、結局、一度も行くことなく終わってしまいました。一過性の作られたパビリオンより、身近な自然のフィールド「パビリオン」が何倍も素晴らしく、何度でも訪れたい場所です。次はこちらを体験してください。

【秋の森はキノコの世界】

茸(キノコ)が出るのは秋に限るわけではありませんが、湿度が高く

なり、気温が低くなる秋の気候が多くのキノコの発生に適しています。多湿で森林国の日本は種類も5,000種近く見つかり、毒キノコも多く、その内食用になるのは100種程度と言われてます。キノコは菌糸体の花に相当し、これで胞子を放って増えます。秋に森に入ると林床の落葉の上や倒木、枯木などに多種多様なキノコが見つかります。種類が多く、よく似た別種もあるので判別するのは難しいですが、キノコ狩りを兼ねて不思議な世界を垣間見てはいかがでしょうか？



傘は薄黄色、清楚な美しさがあるキツネノハナガサタケ（令和7年9月27日）



ハリガネオチバタケ



アキヤマタケ



ワサビタケ

【収穫祭、秋を美味しくいただきます!】

3連休の中日の10月12日、多くの行事が開催される中で久斗山地区公民館も負けじと「秋の収穫祭!いも掘り体験」を開催、40人近い参加者がありました。第一部は公民館前の畑で、金時、紅あずま、シルスイートの3品種のさつまいも芋掘り体験です。幼児から年配の大人まで、土まみれになりながら太くてよく育った、自分の顔より大きい芋を次々に掘り出しました。芋掘りが終り、次の第二部は収穫祭!掘りたての芋はまだ美味しくないで、2週間前に掘って寝かしてた芋を使い、久斗山産の新米とムカゴや栗、さいの目に切った芋と一緒に飯ごうで炊きました。次にキノコや野菜、それにシカ肉が入った「じゃぶ」を大鍋で作りまし。さらに大学芋、芋けんぴ、焼き芋、銀杏の素揚げ、胡桃の実、アケビやサルナシの実のデザートも。おまけに自然薯をすり鉢ですって「とろろ」にして、ご飯にかけて食べまし。どれも美味しくて、秋の味覚に大満足でした。



さつまいもの皮をむき、さいの目に切る



銀杏の堅い殻を割って中身を出す



栗、ムカゴ、芋入りご飯



大学芋が美味しい

みんなそろって「いただきます!」

鳥取から新温泉町にかけて、各地で民族芸能として残る麒麟獅子舞の祭典「但馬麒麟獅子舞71st 2025」が9月23日に開催されました。宇都野神社他、6団体の麒麟獅子舞いと歌長太神楽が披露され、見応えがありました。

